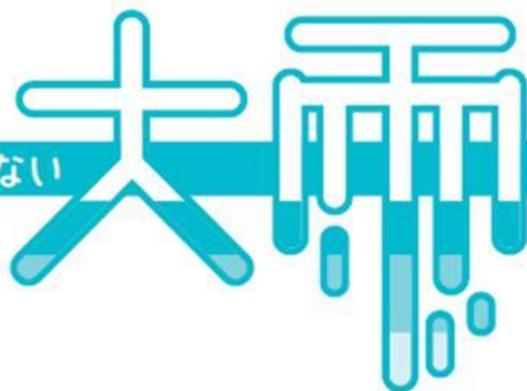


気象庁ワークショップ



経験したことのない

その時どうする？

運営マニュアル

オンライン方式対応版

(対面方式による時間短縮版としても利用可能)

気象庁

【運営マニュアルの内容】

みなさんとみなさんの大切な人は、身近な災害リスクの存在を認識していますか？

オンライン方式ワークショップ

ワークショップの概要

段階的に提供する「状況付与」資料

- ◆ オープニング
- ◆ 役割決め
- ◆ 場所・住居・家族
 - 【コラム】国民の皆さんへ ～大事な命が失われる前に～
- ◆ ハザードマップ
- ◆ 警戒レベル1：今後、気象状況悪化のおそれ
 - 【コラム】早期注意情報
- ◆ 警戒レベル1：災害への心構えを高める
 - 【コラム】警戒レベル1
 - 【コラム】警戒レベル1及び2に含まれる気象注意報等
- ◆ 警戒レベル2：気象状況悪化
 - 【コラム】警戒レベル2
- ◆ 警戒レベル2：自らの避難行動を確認
 - 【コラム】雨の強さと降り方
- ◆ 警戒レベル3から4：災害のおそれありから高いへ
 - 【コラム】警戒レベル3
- ◆ 警戒レベル3から4：危険な場所から高齢者等は避難から全員避難へ
 - 【コラム】警戒レベル4
- ◆ 警戒レベル5：災害発生又は切迫、緊急安全確保
 - 【コラム】自動車による避難
 - 【コラム】警戒レベル5
- ◆ 発表の準備
- ◆ 発表・質疑・講評
 - 【コラム】雨がやんでも安全とは限らない
 - 【コラム】災害に遭わないために
 - (参考) 【講評のポイント】居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢
 - (参考) 【解説台本の一例】警戒レベルと防災気象情報
 - 【コラム】警戒レベルの一覧表（避難情報等と居住者等がとるべき行動）
- ◆ まとめ：本日のねらい
 - 【コラム】避難行動の分類
- ◆ まとめ：災害への心構え
 - 【コラム】避難行動の目的

【コラム】について

ファシリテーター役や専門家役の方が、参加者からの質問に応えたり、解説の補強を行う際などに適宜参考として活用してください。

オンラインで使える教材

- ・eラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」
- ・防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」
- ・気象庁 知識・解説 YouTubeチャンネル

参考資料

- ・気象庁ホームページ
- ・逃げなきゃコール

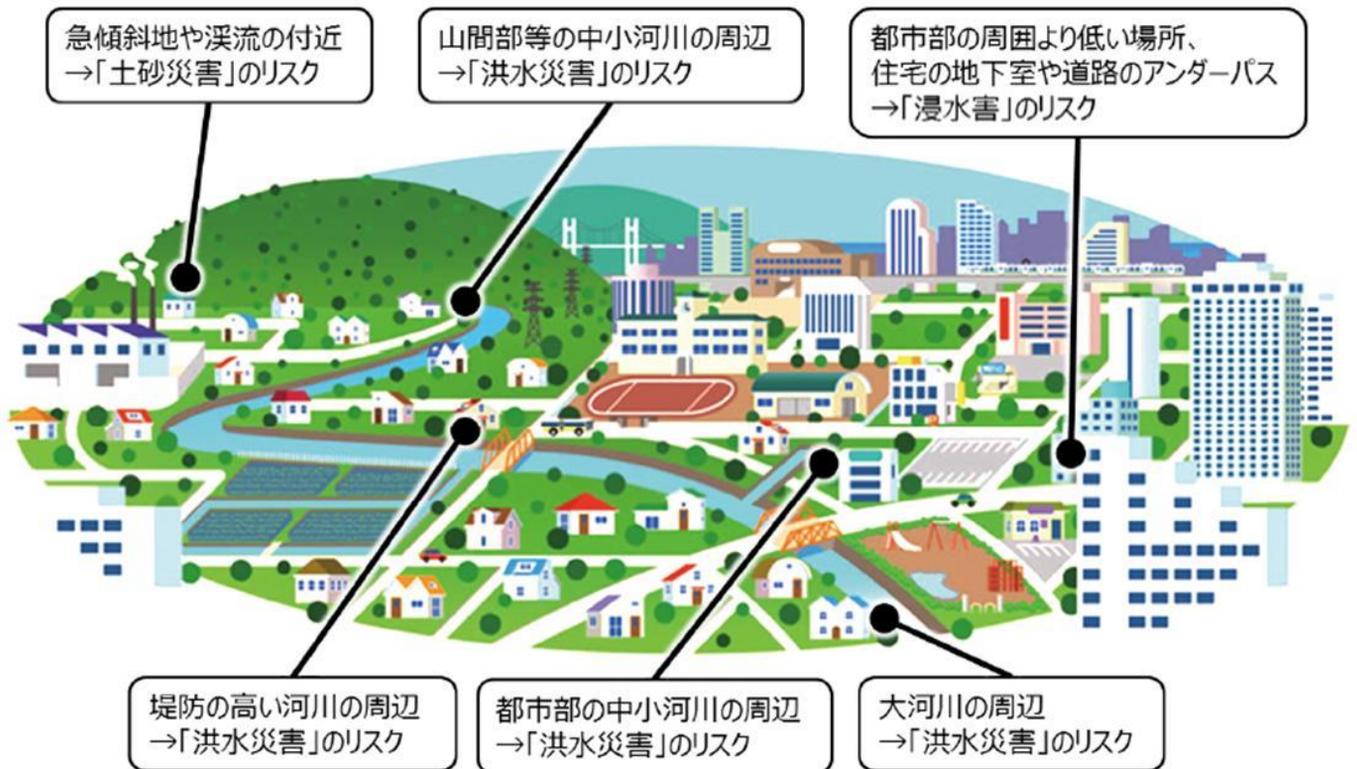
参加者用アンケート



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

みなさんとみなさんの大切な人は、 身近な災害リスクの存在を認識していますか？

険しい山や急流が多い我が国では、大雨によって、川の氾濫や土砂災害が発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。それぞれの場所に応じて必要な防災気象情報を活用することが重要です。大雨により視界が悪く、また、浸水した道路では側溝の境界が見えにくくなります。川や田んぼを見に行行って流される事故も発生しています。



オンライン方式は、平時から使い慣れておくことで利用の幅が広がります

- オンライン方式は、離れている人と意見交換できるとても便利な方式です。感染症拡大防止対策も意識する必要はありません。
- オンライン方式は、平時から使い慣れておくことで、異常時の情報共有ツールとして活用できるようになります。大規模災害発生時や交通障害時など、すぐに集まれない場合や、離れた場所で活動する関係機関を支援する場合など、様々な場面で利用可能です。
- オンライン方式により、打ち合わせやワークショップを開催する場合、開催者が準備する主な手順は3つです。
 - ①利用するWEB会議システムのアカウントを登録・アプリをダウンロード
 - ②WEB会議システムの設定・参加者へ案内
 - ③会議の開始

オンライン方式による打ち合わせやワークショップなどは、ある程度、WEB会議システムの使い方に慣れてないと、開催する側はもちろん、参加する側も戸惑う場合があります。

しかし、使う機能は限定的ですし、すぐに慣れますので、難しく考えず、まず、使ってみることが大切です。

オンライン方式ワークショップ

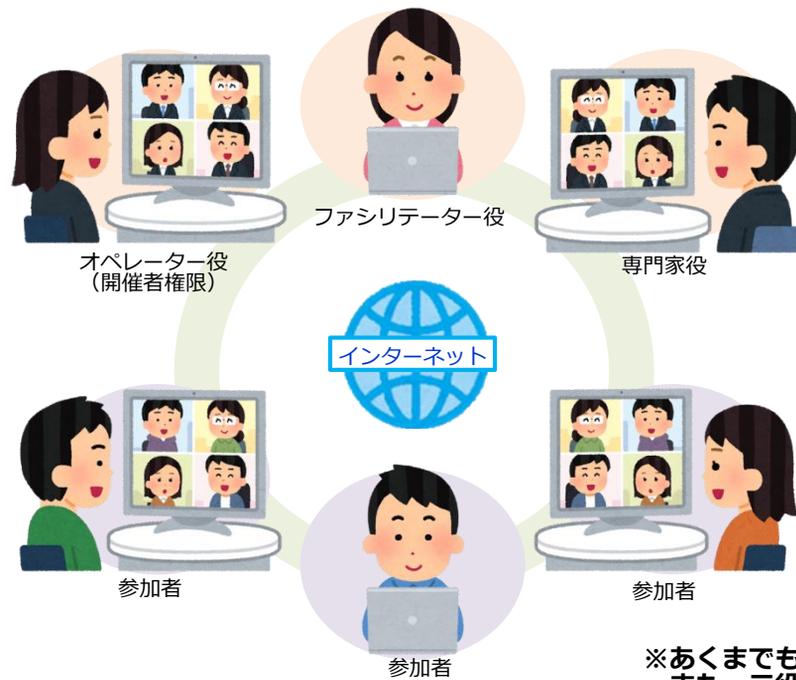
◆三役の果たす役割（理想形）

ファシリテーター役：単に、進行役ということだけではありません。参加者の様子に気を配り、意見が出やすくなるよう雰囲気づくりに努めます。参加者の理解を深めるため、分かりやすく言い換えたり、参加者に代わって、あえて専門家に質問することもあります。

専門家役：単に、専門用語等の解説者というだけではありません。ファシリテーターと連携し、参加者の理解を深めるよう努めます。特に、ファシリテーターと専門家の掛け合いは、会話にメリハリがついて、参加者が聴きやすくなり、理解を助けることにつながります。

オペレーター役：テレビ会議システムの操作など、オンラインを用いたワークショップをシステム面から支援します。ワークショップ進行中の最大の作業は、参加者がメインルームとグループのルームをスムーズに異動することです。参加者がトラブルなく参加できているかに気を配ります。

※あくまでも「理想形」です。役割を意識するだけでも十分です。また、三役そろわなくても、兼務して実施することも可能です。



オンライン方式によるワークショップのコツ

○Web会議システムの使い方に慣れていない場合、まずは難しく考えず、気心知れた少人数の身近な人と試したり、小規模ワークショップとして無理にグループワークとせず、参加者全員をひとつのグループ（グループ分けしない方式）として実施するなど、可能なところから段階的に対応レベルを上げてゆくのが有効です。「まずは、やってみる」という気持ちが大切です。

○参加者がWeb会議システムに慣れているとは限りません。一番多いトラブルは、カメラが写らない、声が聞こえない等、参加者自身のパソコンに起因するトラブルです。予防策は、事前（できれば、数日前）に接続試験（模擬会議等）の機会を設け、参加予定者にWeb会議システムに参加する手順を事前に経験いただくことです。この方法が一番有効です。

○ワークショップをスムーズに開始するため、もっとも重要なことは、開始時刻に遅れないよう参加者に参加いただくことです。そのためには、開始時刻を明確に伝えることはもちろん、開始の15～30分前から会議受付を開始し、マイク、カメラのテストも兼ねて、少し早めに参加（待機）いただけるようにすることです。

【各グループの個別のルーム】

○テレビ会議システムの「ブレイクアウトルーム」機能を利用します。参加者を、各ルームに割り当て異動させることで実現します。利用するテレビ会議システムにより操作方法が異なるので、それぞれのマニュアルやYouTubeなどにアップされている解説を参照してください。

【ワークショップ進行中の「付与情報」】

ワークショップでは、場面が段階的に進むのに合わせて「付与情報」を提供し、設定や条件をひとつずつ理解し状況に応じた対応を検討してもらえるようになっていきます。対面方式では、該当する場面で配布することが可能です。しかし、同じことをWeb会議システムの機能を用いて行うのは難しいので、あらかじめメールで送付しておく方法が考えられます。配布するタイミング別に袋に入れ、郵送などして渡しておく方法も考えられます。一番、やりやすい方法を採用してください。ただし、参加者には、ワークショップ開始まで中身を見ないよう指示してください。

【検討結果の発表方法】

ワークショップでは、課題に対する検討結果を参加者から皆に発表してもらう場面があります。その発表方法は、参加者のWeb会議システム操作技術に依存します。一番簡単な方法は、マイクをONにし口頭で発表してもらう方法です。プラスαとして、WEB会議システムのチャット機能を利用し、要点をメモ書きのように記してもらう方法もあります。参加者が使い方に慣れていないのなら、作成した発表資料をWEB会議システムの共有機能を使って皆に示す方法もあります。

※本運営マニュアルでは、オンラインで実施するため、必要最小限の操作のみ記しています。開催状況や参加者の操作技術等を踏まえて、適宜補強・修正してください。また、特定のWeb会議システムを想定したものではないので、操作方法等は、利用するそれぞれのマニュアルやYouTubeなどのアップされている解説を参照してください。

ワークショップの概要

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。

しかし、外の状況は刻々と変わってゆきますので、「避難情報」が発令されていなくても、気象台等が発表する防災気象情報を参考に、自ら判断で、早めに命を守る行動をとることも重要になってきます。

※本ワークショップでは、自らの判断で行動することを学べるよう、市町村からの「避難情報」は付与されない設定としています。

本ワークショップは、おおむね1時間程度で実施できる内容となっています
(オンライン方式では、操作説明やメインルームと各ルーム間の異動等、+αの時間が必要になる場合があります)

シナリオ

月日	時	雨の降り方	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	警戒レベル	グループで検討する内容	備考 (想定発生災害)
10月 4日 (金)	06時		05:00 早期注意情報	警戒レベル1	【場面1】 昼のニュースを見て、明日5日からの大雨に備えて、今できる対応や準備を検討	
	12時		11:00 早期注意情報			
	18時		17:00 早期注意情報			
10月 5日 (土)	00時					
	06時	弱い雨 時折 強い雨	05:00 大雨・洪水注意報	警戒レベル2	【場面2】 朝のニュースや注意報を見て、これからの大雨に備えて、今できる対応や準備を検討	水路が溢れる
	12時	強い雨	13:30 大雨・洪水警報	警戒レベル3	【場面3】 警戒レベル3、警戒レベル4の段階で、いかに、大雨に備えた命を守る対応をとるかを検討	
	18時	非常に 激しい雨	18:30 土砂災害警戒情報			
00時	断続的に 猛烈な雨		警戒レベル4	※大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合がある！	単発的崖崩れ	
10月 6日 (日)	06時	強い雨	04:30 大雨特別警報	警戒レベル5	※警戒レベル5は、命にかかわる災害が発生している可能性が極めて高い！ ※雨がやんでも安全とは限らない！	各地で土砂災害
	12時					

地元気象台が発表する「防災気象情報」は、市町村が発令する「避難情報」に相当する情報であるとともに、住民が自主的に避難の判断をする重要な情報でもあります。

段階的に提供する「状況付与」資料

ワークショップでは、場面が段階的に進むのに合わせて、参加者にその時の状況を付与し、設定や条件をひとつずつ理解し状況に応じた対応を検討してもらえるようにしてゆきます。参加者自ら気づけるよう、検討のヒントになりそうな参考資料も含めています。

対面方式では、該当する場面で配布することが可能です。しかし、同じことをWeb会議システムの機能を用いて行うのは、かなり難しいと思われます。対策として、あらかじめメールで送付しておく方法が考えられます。配布するタイミング別に袋に入れ、郵送などして渡しておく方法も考えられます。参加者が対応可能な、一番やりやすい方法を採用してください。ただし、ワークショップ開始まで中身を見ないよう指示してください。

場面①：10月4日12:00～5日明け方（大雨の前日、何をする？）
このタイミングで
どんな行動を
なぜ？その理由は？

場所・住居・家族

番号	場所	住居	家族
①	A:川辺そば	3階建て 賃貸マンション 1階	父・母・私 祖父(歩行困難) 車あり
②	B:斜面のそば	木造2階建て 一軒家	父・母・私 祖母(歩行困難) 車あり
③	A:川辺そば	3階建て 賃貸マンション 2階	母・私 祖母(歩行困難) 車なし
④	B:斜面のそば	木造2階建て 一軒家	父・母・私 車あり
⑤	A:川辺そば	木造3階建て 一軒家	父・私 妹(中学生) 車なし



場面 1

4日(金) 昼、ローカルニュース

朝練の活動が活発になるため、公立書では、今夜から雨が降り始め、朝5日(土) 昼頃から、朝後6日(日) 明け方にかけて、非常に激しい雨が降る見込みです。気象台からは、大雨警報が発表される可能性が高いとして、すでに「早期注意情報」も発表されています。**警戒レベル1：災害への心構えを高める**

大雨となるおそれがあるため、低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに警戒してください。気象台が発表する警報、注意報、気象情報に十分留意してください。

(日の出：5時30分頃、日の入：17時頃)

(参考) 予報用語

気象予報は、気象庁が観測している気象情報や気象衛星の観測データに基づいて作成されています。予報は、予報の信頼性が高い地域で、特に注意が向けられています。

予報用語	内容
大雨	24時間降水量が50mm以上となる見込み
大雨警報	24時間降水量が50mm以上となる見込み
大雨注意報	24時間降水量が50mm以上となる見込み
大雨特別警報	24時間降水量が50mm以上となる見込み

警戒レベル1に相当する気象情報の情報

気象庁の発表する気象情報、大雨警報、大雨注意報、大雨特別警報は、気象庁のホームページから確認することができます。また、気象庁のホームページから確認することができます。

場面 2

場面②：10月5日明け方～5日昼前（大雨当日、何をする？）
このタイミングで
どんな行動を
なぜ？その理由は？

5日(土) 朝5時、大雨・洪水注意報

気象情報・注意報	5日(土) 18時30分 土砂災害警戒情報
大雨警報	土砂災害警戒区域
大雨注意報	土砂災害警戒区域
大雨特別警報	土砂災害警戒区域

5日(土) 朝、ローカルニュース

お早いです。昨夜から激しい雨が降っています。今日5日昼過ぎからは、非常に激しい雨が降り、夜は、一層激しく、猛烈な雨が降ると予想されています。過去に大きな被害をもたらした大雨に匹敵する状況になるおそれがあるとのことです。低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに警戒してください。気象台が発表する警報、注意報、気象情報に十分留意してください。

5日(土) 5時00分 大雨注意報 洪水注意報
警戒レベル2：自らの避難行動を確認

警戒レベル2に相当する気象情報の情報

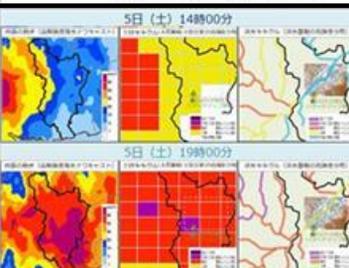
気象庁の発表する気象情報、大雨警報、大雨注意報、大雨特別警報は、気象庁のホームページから確認することができます。また、気象庁のホームページから確認することができます。

場面 3

場面③：10月5日昼～6日明け方（外は大雨、命を守る行動は？）
このタイミングで
どんな行動を
なぜ？その理由は？

5日(土) 13時30分、大雨警報、洪水注意報

気象情報・注意報	5日(土) 18時30分 土砂災害警戒情報
大雨警報	土砂災害警戒区域
大雨注意報	土砂災害警戒区域
大雨特別警報	土砂災害警戒区域



地域の細かい状況がわかる情報

キキクル(危険度分布)
土砂・洪水キキクルのうす紫は、警戒レベル4相

土砂災害警戒情報や洪水警報等が発表されたら、キキクル(危険度分布)を確認!

発表準備

発表内容

話し合った内容をまとめた。よかった点、おもしろかった点、気づき、よかったこと、とあったこと、整理してください。

令和3年5月20日から避難指示が必ず避難避難勧告を廃止

本日のシナリオ

本日のシナリオは、大雨・洪水・土砂災害の発生を想定し、避難行動を確認するためのシナリオです。参加者は、このシナリオに基づいて、避難行動を確認し、避難行動を確認してください。

(参考) 大雨・浸水時や夜間の屋外の移動は？

わたしの「避難」について考えてみよう

避難行動を確認するためのシナリオ

本日のシナリオは、大雨・洪水・土砂災害の発生を想定し、避難行動を確認するためのシナリオです。参加者は、このシナリオに基づいて、避難行動を確認し、避難行動を確認してください。



✓ 留意点

- ・プレゼン資料を参加者に見せながら検討の前提条件等を説明してゆきます。オンライン方式の場合は、テレビ会議システムの「共有」機能を利用します。
- ・「状況付与」の資料は、ワークショップの進行に合わせて、段階的に参加者に示すことで、設定や条件をひとつずつ理解し状況に応じた対応を検討してもらえるようにします。

ファシリテーター

皆さんにお送りしている（状況付与）資料は指示があるまで見ないでください。それではみなさん揃いましたので、はじめます。

ファシリテーター

私は、本日、司会を務めます、〇〇と申します。※30秒～1分程度で自己紹介
専門的なことは、〇〇さんにコメントもらうこととします。
〇〇さん、ひとこと、おねがいします。

専門家

私は、〇〇と申します。 ※30秒～1分程度で自己紹介
適宜、コメントさせていただきますので、よろしくおねがいします。

ファシリテーター

本日は、気象台が発表する大雨に関する防災気象情報に触れながら
皆さんの避難行動と、防災気象情報との関係について、考えてみます。

オンライン方式

オンラインにより行いますので、最初をお願いします。

- ・カメラは、常にON にしてください。
いまいる「メインルーム」でも、
グループに分かれてワークをする場合でも、
常に、ON にしておいてください。
(みなさんの顔が見えるようにしておいてください)
- ・次にマイクですが、
グループに分かれてワークをする場合は、
発言する、しないにかかわらず、常に、ON とし、
積極的に会話に参加してください。
ただし、メインルームに戻ったら、
発言される方以外は、OFF (ミュート) とするよう、
ご協力ください。

ご了解いただけただけでしょうか。
(カメラをONにさせていただいたようですね。
こちらから皆さんの顔が見えます。
今はメインルームなので、
マイクは OFF (ミュート) です。)

※「共有」によりプレゼン資料表示

対面方式

ファシリテーター

では、さっそくはじめましょう



✓ 留意点

- ・役割の決め方は、各グループに任せます。
- ・「自己紹介」を行う目的は、参加者の気持ちをほぐすことにあります。参加者の中には初対面の人と話すのが苦手な方もいます。各自、自ら声をだすことで緊張した空気が壊れ（氷に例えて「アイスブレイク」といいます）少しでもグループ内のコミュニケーションが円滑となるよう期待して行うものです。参加者が負担に感じないよう留意してください。

ーファシリテーター

これからグループに分かれて、役割を決めてもらいます。
役割は、リーダー、記録係、発表係の3種類です。

- ・リーダーは、みんなの意見をうまく引き出し、そしてまとめる役割です。
- ・記録係は、みんなの考えや意見を記録する役割です。
- ・発表係は、最後のまとめの時に、グループの意見を発表する役割です。

オンライン方式	対面方式
<p>今日は、何度か、メインルームと各グループのルームとの間を、行ったり来たりしてもらいます。</p> <p>※実施の方法に合わせて異動方法を説明 異動は、オペレーターが、すべて制御しますので、皆さんは、何もする必要はありません</p> <p>さっそくやってみましょう グループに分かれたら、お互い30秒程度で自己紹介し、それから、役割を決めてください。</p> <p>2分間(+自己紹介の時間)、 *時*分までをお願いします。</p> <p>※実施の方法に合わせて、グループワーク開始を宣言 では、オペレーターさん、皆さんを各グループへ異動してください。グループワーク開始です。 ***** (グループに分かれてワーク) *****</p> <p>※「共有」を解除し、皆の顔が見えるようにする ※可能であれば、適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、チャットなどを通じて、適宜、考え方、進め方のヒントを提供 ※チャットなどで終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。 ※グループに分かれている時は、カメラとマイクは、常にONにして、積極的に発言するよう促す。</p> <p>-----</p> <p>【チャット】メインルームに戻ります。 カメラはON、マイクはOFFでお願いします **** (メインルームに戻って全体ワーク) **** ※参加者がメインルームに戻ったことを確認 ※「共有」によりプレゼン資料表示</p>	<p>さっそくやってみましょう グループに分かれたら、お互い30秒程度で自己紹介し、それから、役割を決めてください。</p> <p>2分間(+自己紹介の時間)、 *時*分までをお願いします。</p> <p>では、はじめてください。</p> <p>***** (グループに分かれてワーク) *****</p> <p>※適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、考え方、進め方のヒントを提供</p> <p>※終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。</p> <p>-----</p> <p>【ファシリテータ】はい、終了です。 こちらを注目してください。 **** (メインルームに戻って全体ワーク) **** ※参加者が落ち着いてから次へ</p>

ーファシリテーター

今の要領でグループワークをしてもらいます。
何か、質問はありますか？ ※質問対応

✓ 留意点

状況付与(場面1)			
場所・住居・家族			
班	場所	住居	家族
①	A:川のそば	3階建て 鉄骨マンション 1階	父・母・兄・私 祖父(歩行困難) 車あり
②	B:斜面のそば	木造2階建て 一軒家	父・母・姉・私 祖母(歩行困難) 車あり
③	A:川のそば	3階建て 鉄骨マンション 3階	母・姉・私 祖母(歩行困難) 車なし
④	B:斜面のそば	木造2階建て 一軒家	父・母・姉・私 車あり
⑤	A:川のそば	木造2階建て 一軒家	父・私・ 姉(中学生) 車なし

- ・状況設定について細かいことを問われたら、基本、各位の判断に委ねてください。
- ※5種類の設定を準備しています。複数のグループが同じ設定となっても何ら問題ありません。適宜、調整してください。
- ※参加者の状況を踏まえて、より身近な設定とすることも有効です。

ファシリテーター

では次に、皆さんの家の場所や、一緒に暮らしている家族構成です。

「状況付与(場面1)」の資料を見てください。
あらかじめ、こちらで、この表のように決めさせていただきました。

1班は、①、2班は、②、・・・5班は、⑤です。

皆さんの家が建っているのは、それぞれ
A(川のそば) 又は B(斜面のそば)です。

気象コラム

平成30年7月豪雨を踏まえた 水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より
平成30年12月 中央防災会議 防災対策実行会議

今回の豪雨災害は、行政主導の避難対策の限界を明らかなものとし、国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しいということを我々に突き付けた。行政には、引き続き、避難対策の強化に向け全力で取り組むことを求めるが、加えて、国民の皆様にも、下記のことを強く求める。

＜国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～＞

- ・自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- ・行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ・行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- ・まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- ・命を失わないために、災害に関心を持ってください。
 - あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
 - 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- ・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。



✓ 留意点

- ・地図は、最低限の情報のみが載っているものをこのワークショップ用に用意しています。
- ※地元のハザードマップを用いるなど、より身近な設定とすることも有効です。
- ・状況設定について細かいことを問われたら、各位の状況を踏まえて補強するなど、参加者の判断に委ねてください。

ファシリテーター

次に、地図をみてください。

これはハザードマップです。
みなさんの家も A、B と表示してあります。
場所を確認してください。

薄い黄色や緑色、水色は、川の水があふれて浸水する範囲です。
色の違いは、想定される浸水の深さです。

Aの家が、その領域の中にあります。
薄い緑色なので、川の水が溢れると、
50センチから1メートル近く浸水するおそれがある範囲です。

赤色は、崩れてきた土砂が、住宅やお店など、
人が住む建物などに被害が及ぶ『土砂災害警戒区域等』です。
Bの家が、その範囲の中にあります。

避難場所が2ヶ所、示されています。
どちらの避難場所も、川が溢れても浸水する範囲に入っていません。
また、崩れてきた土砂により、被害が及ぶ場所でも無いようです。
(ただ、そばに、水路があるようです。)

ここまでよろしいですか？ 何か質問はありますか？

※質問対応

ファシリテーター

さて、この後、皆さんの住んでいるこの町に大雨が降ってきます。
順次、防災気象情報も発表されます。

皆さん、そして、皆さんの家族が「命」を失わないため
どのタイミングでどのような行動をとるか、
各グループで話し合ってもらいます。

あとから発表してもらいますので、
そのように考えた理由も説明できるようにしてください。

では、はじめましょう。

警戒レベル1：今後、気象状況悪化のおそれ



✓ 留意点

- ・最初の状況設定を飲み込めるかが、このワークを進めていく上で肝心です。
- ・早口にならないよう留意（むしろ、ゆっくりめ）し、はっきりした口調で伝えるよう努めてください。
- ・状況付与（場面1）資料には、災害の起こりやすい場所や予報用語が含まれています。参加者の様子を見て適宜参照するよう促します。

ファシリテーター

今日は、10月4日（金）です。

昼のテレビで、お天気キャスターが「明日は大雨に警戒して下さい。」と伝えています。

大雨に備えてどのような準備をするのか、このあと、皆さんに考えてもらいますのでこれから伝える情報をよくきいてください。

お天気キャスターが、昼のローカルニュースで伝えていたことは・・・

○読み上げ原稿

前線の活動が活発になるため、（皆さんの住んでる）県では、今夜から雨が降り始め、明日5日（土）昼頃から、明後日6日（日）明け方にかけて、非常に激しい雨が降る見込みです。

大雨となるおそれがあるため、低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに警戒してください。

気象台からは「大雨警報」が発表される可能性が高いとして「早期注意情報」も発表されています。

気象コラム

【早期注意情報】

警報級の現象が5日先までに予想されるときには、その可能性を「早期注意情報」として【高】【中】の2段階で発表します。

A県沿岸北部地方の早期注意情報（警報級の可能性）										
202X年08月30日05時 A地方気象台 発表										
沿岸北部地方では、31日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性が高い。今後の情報に留意してください。										
	沿岸北部	30日				31日		1日	2日	3日
		夕方まで		夜～明け方		朝～夜遅く				
		6-12	12-18	18-24	0-6		6-24			
大雨	警報級の可能性	[高]	[高]	[高]	[高]	-	-	-	-	
暴風	警報級の可能性	[高]	[高]	[高]	[高]	-	-	-	-	
波浪	警報級の可能性	[高]	[高]	[高]	[高]	[中]				

■ [高] ■ [中]

気象庁ホームページ
表示イメージ

警戒レベル1：災害への心構えを高める



留意点

- ・参加者に、来る大雨に対して「準備すべきこと」を考えてもらいます。
- ・ファシリテーター・専門家は、グループの様子に気を配り、課題が分かっていない班があれば、説明を補足し議論が円滑にできるよう手伝います。
- ・残り時間を参加者に意識させるようにしてください。
- ・早めに検討が終了しているようなら、時間前でも切り上げ、参加者をメインルームに集めて次へ進みます。

専門家

4日(金)の昼にみなさんは、(先ほどお伝えしたように)明日5日(土)昼頃から、非常に激しい雨が降るという情報をえました。すでに、4日の夜から、弱い雨が降り出しています。そして、日付が変わって5日(土)。外がやっと明るくなってきた、という状況です。

ファシリテーター

「状況付与(場面1)」の資料を確認し、(天気予報で、大雨のおそれを知った)4日(金)昼から翌日の5日(土)明け方までの間で、どのような準備をするか各グループに分かれて話し合ってもらいます。

8分間、*時*分までに終わらせるようお願いします。

オンライン方式

※実施の方法に合わせて、グループワーク開始を宣言では、オペレーターさん、皆さんを各グループへ異動してください。グループワーク開始です。

***** (グループに分かれてワーク) *****

※「共有」を解除し、皆の顔が見えるようにする
※可能であれば、適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話滞っているグループがあれば、チャットなどを通じて、適宜、考え方、進め方のヒントを提供

※チャットなどで終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。

※グループに分かれている時は、カメラとマイクは、常にONにして、積極的に発言するよう促す。

【チャット】メインルームに戻ります。
カメラはON、マイクはOFFをお願いします

**** (メインルームに戻って全体ワーク) ****

※参加者がメインルームに戻ったことを確認

※「共有」によりプレゼン資料表示

対面方式

では、はじめてください。

***** (グループに分かれてワーク) *****

※適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話滞っているグループがあれば、考え方、進め方のヒントを提供

※終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。

【ファシリテーター】はい、終了です。
こちらを注目してください。

**** (メインルームに戻って全体ワーク) ****

※参加者が落ち着いてから次へ

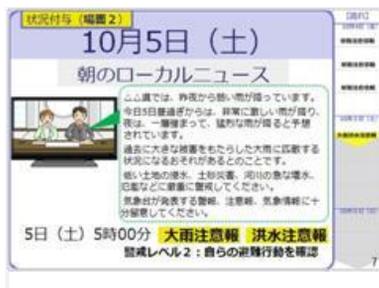
気象コラム

【警戒レベル1】居住者等は、防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める必要がある。自主的な避難先(親戚・知人宅やホテル・旅館等)の調整や、屋内安全確保をする場合には備蓄の補充等、時間を要する準備については居住者等の判断で自主的に進めておくことが望ましい。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.1警戒レベル1早期注意情報(発表者：気象庁)」より]

【警戒レベル1及び2に含まれる気象注意報等】警戒レベル1及び2は市町村長が発令する避難情報ではなく、気象庁が発表する気象注意報等である。警戒レベルが5段階であるのは、災害の切迫度の高まりに応じて居住者等がとるべき行動を5段階に分類したためであり、その行動を促す情報について、警戒レベル1及び2については該当する避難情報がないため、テレビの天気予報等とおして居住者等に提供される情報である気象注意報等を警戒レベル1及び2としたものである。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「関連情報⑩」より]



✓ 留意点

- ・状況付与（場面2）資料には、警戒レベルや、警戒レベルに相当する気象庁の情報の説明が含まれています。参加者の様子を見て適宜参照するよう促します。
- ・参加者の様子を見て、状況付与（場面1）資料にある、予報用語も適宜参照するよう促します。

ファシリテーター

はい、では次に進みます。
大雨当日の朝になりました。
「状況付与（場面2）」の資料を見てください。

専門家

朝5時、気象台は、「大雨注意報」と「洪水注意報」を発表しました。
『警戒レベル2』 自らの避難行動を確認するレベルに相当します。

外は、弱い雨が降っており、時折、強い雨（どしゃ降り）となることもある状況です。

ファシリテーター

テレビでは、朝のローカルニュースや天気予報で、お天気キャスターが伝えていたことは・・・

○読み上げ原稿

**（皆さんが住んでいる）県では、
昨夜から弱い雨が降っています。**

**今日5日昼過ぎからは、非常に激しい雨が降り、
夜は、一層強まって、猛烈な雨が降ると予想されています。**

**過去に大きな被害をもたらした大雨に匹敵する状況になる
おそれがあるとのことです。**

**低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに
厳重に警戒してください。**

気象台が発表する警報、注意報、気象情報に十分留意してください。

気象コラム

【警戒レベル2】

居住者等は、ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認する。

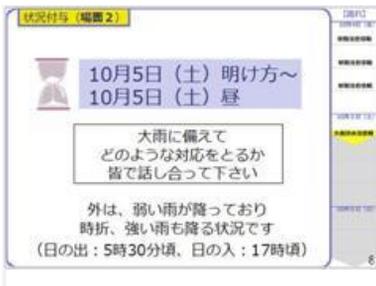
なお、避難するに当たって持参する荷物をまとめる等の避難準備については平時に済ませておくことが望ましいが、まだ行っていない場合は、自らが避難するタイミングである警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示が発令される前までに行う必要がある。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.2警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報(発表者：気象庁)」より]

警戒レベル2：自らの避難行動を確認

✓ 留意点

- ・警戒レベル2 まもなく 警戒レベル3になろうとしている状況です。
- ・朝のニュースや注意報を見て、これからの大雨に備えて、今できる対応や準備を検討してもらいます。
- ・参加者の様子を見て、状況付与（場面1）にある予報用語、状況付与（場面2）にある、警戒レベルや警戒レベルに相当する気象庁の情報の説明を適宜参照するよう促します。



ファシリテーター

それでは、5日（土）明け方から昼前にかけて、どのような対応をするか、各グループに分かれて話し合ってもらいます。

8分間、*時*分までに終わらせるようお願いします。

オンライン方式	対面方式
<p>※実施の方法に合わせて、グループワーク開始を宣言では、オペレーターさん、皆さんを各グループへ異動してください。グループワーク開始です。 *****（グループに分かれてワーク）*****</p> <p>※「共有」を解除し、皆の顔が見えるようにする</p> <p>※可能であれば、適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、チャットなどを通じて、適宜、考え方、進め方のヒントを提供</p> <p>※チャットなどで終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。</p> <p>※グループに分かれている時は、カメラとマイクは、常にONにして、積極的に発言するよう促す。</p> <p>-----</p> <p>【チャット】メインルームに戻ります。 カメラはON、マイクはOFFをお願いします ****（メインルームに戻って全体ワーク）****</p> <p>※参加者がメインルームに戻ったことを確認</p> <p>※「共有」によりプレゼン資料表示</p>	<p>では、はじめてください。</p> <p>*****（グループに分かれてワーク）*****</p> <p>※適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、考え方、進め方のヒントを提供</p> <p>※終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。</p> <p>-----</p> <p>【ファシリテーター】はい、終了です。 こちらを注目してください。 ****（メインルームに戻って全体ワーク）****</p> <p>※参加者が落ち着いてから次へ</p>

ファシリテーター

はい、では次に進みます。

気象コラム

【雨の強さと降り方】

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロブレーキング現象）	車の運転は危険	



✓ 留意点

- ・大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合があります。そのことに気づき、早めの避難行動の重要性をしっかりと認識いただくことが、本ワークショップの最大の「ねらい」です。
- ・参加者の様子を見て、状況付与（場面1）にある予報用語、状況付与（場面2）にある、警戒レベルや警戒レベルに相当する気象庁の情報の説明を適宜参照するよう促します。

ファシリテーター

いよいよ大雨となってきました。「状況付与（場面3）」の資料を見てください。

専門家

5日（土）昼過ぎとなりました。

気象台は、13時30分に「大雨警報」と「洪水警報」を発表しました。

『警戒レベル3 高齢者等避難』に相当します。

高齢者等以外の人も、必要に応じて、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

外は、非常に激しい雨が降っています。まるで、滝のような雨です。

（1時間に50ミリ以上80ミリ未満の雨）

専門家

18時30分には、「土砂災害警戒情報」が発表されました。

『警戒レベル4 避難指示』に相当します。

いつ、土砂災害が発生してもおかしくない状況です。

外は、断続的に猛烈な雨が降っています。恐怖を感じる雨です。

（1時間に80ミリ以上の雨）

皆さんは、スマートフォンやパソコンを使って

土砂災害や洪水の危険度分布（愛称「キキクル」）を確認しました。

日の入は17時頃です。

土砂災害警戒情報が発表された時点で、もう外は真っ暗になっています。

気象コラム

【警戒レベル3】

市町村長から警戒レベル3高齢者等避難が発令された際には、高齢者等は危険な場所から避難する必要がある。高齢者等の「等」には、障害のある人等の避難に時間を要する人や避難支援者等が含まれることに留意する。具体的にとるべき避難行動は、「立退き避難」を基本とし、洪水等及び高潮に対しては、ハザードマップ等により屋内で身の安全を確保できるか等を確認したうえで自らの判断で「屋内安全確保」することも可能である。

また、本情報は高齢者等のためだけの情報ではない。高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。以下、早めの避難が望ましい場所の例である。

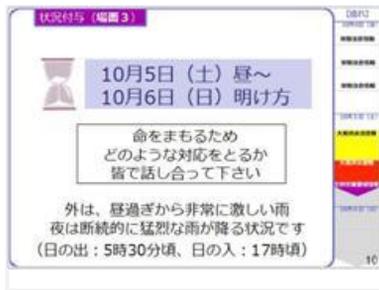
- ・急激な水位上昇のおそれがある中小河川沿い
- ・浸水しやすい局所的に低い土地
- ・避難経路が局所的な浸水や土砂災害等により通行止めになり孤立するおそれがある場所
- ・突発性が高く予測が困難な土砂災害の危険性がある区域 等

※避難先が遠方にある場合は、移動に必要な時間だけ早期に避難すべきである

なお、緊急時に市町村の職員が指定緊急避難場所を速やかに開放できるとは限らないため、自主防災組織をはじめとする居住者等が開放できるようにしておくなど、工夫も必要である。

以上を基本とするが、施設管理者等については、「1.3 施設管理者等の責務等」の記載内容のとおり、施設の実情に合わせた避難支援を行うこと。

【内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.3警戒レベル3 高齢者等避難(発令者：市町村長)」より】



✓ 留意点

- ・大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合があります。そのことに気づき、早めの避難行動の重要性をしっかりと認識いただくことが、本ワークショップの最大の「ねらい」です。
- ・参加者の様子を見て、状況付与（場面1）にある予報用語、状況付与（場面2）にある、警戒レベルや警戒レベルに相当する気象庁の情報の説明を適宜参照するよう促します。

ファシリテーター

いよいよ、大雨となった状況で、皆さんの行動を考えてもらいます。

5日（土）昼から、翌日6日明け方までに、どのような対応をするか
命を守るための行動について、話し合ってみてください。

8分間、*時*分までに終わらせるようお願いします。

オンライン方式	対面方式
<p>※実施の方法に合わせて、グループワーク開始を宣言では、オペレーターさん、皆さんを各グループへ異動してください。グループワーク開始です。</p> <p>*****（グループに分かれてワーク）*****</p> <p>※「共有」を解除し、皆の顔が見えるようにする</p> <p>※可能であれば、適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、チャットなどを通じて、適宜、考え方、進め方のヒントを提供</p> <p>※チャットなどで終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。</p> <p>※グループに分かれている時は、カメラとマイクは、常にONにして、積極的に発言するよう促す。</p> <p>-----</p> <p>【チャット】メインルームに戻ります。 カメラはON、マイクはOFFでお願いします ****（メインルームに戻って全体ワーク）****</p> <p>※参加者がメインルームに戻ったことを確認 ※「共有」によりプレゼン資料表示</p>	<p>では、はじめてください。</p> <p>*****（グループに分かれてワーク）*****</p> <p>※適宜、グループの様子をモニターし、沈黙が続くなど会話が滞っているグループがあれば、考え方、進め方のヒントを提供</p> <p>※終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。</p> <p>-----</p> <p>【ファシリテータ】はい、終了です。 こちらを注目してください。 ****（メインルームに戻って全体ワーク）****</p> <p>※参加者が落ち着いてから次へ</p>

気象コラム

【警戒レベル4】

市町村長から警戒レベル4 避難指示が発令された際には、居住者等は危険な場所から全員避難する必要がある。

具体的にとるべき避難行動は、「立退き避難」を基本とし、洪水等及び高潮に対しては、ハザードマップ等により屋内で身の安全を確保できるか等を確認したうえで自らの判断で「屋内安全確保」することも可能である。

【内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.4警戒レベル4 避難指示（発令者：市町村長）」より】

状況付与（編成3）	10月5日（土）昼～ 10月6日（日）明け方
5日（土）13時30分	大雨警報 洪水警報
5日（土）18時30分	土砂災害警戒情報 警戒レベル4 避難指示 相模
6日（日）4時10分	大雨特別警報（土砂災害） 警戒レベル5 緊急安全確保 相模

✓ 留意点

- ・「警戒レベル5」は、すでに災害が発生・切迫している状況です。「警戒レベル5」となる前に、避難を完了させておくことが重要です。
- ・「警戒レベル5」になってからの避難行動は、「本行動を安全にとることができるとは限らない」「本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。」ということに参加者に認識いただくことも重要です。

専門家

あの…皆さんに大事なことを伝えなければなりません。

ファシリテーター

エッ！ OOさん（専門家）、何ですか？

専門家

気象台は、6日（日）の4時10分に、「大雨特別警報」を発表しました。『警戒レベル5 緊急安全確保』に相当します。

ファシリテーター

警戒レベル5 とは、命の危険があり、直ちに安全を確保するための行動が必要な状況です。

ファシリテーター

このあと、各班から発表してもらいます。何をどのように発表するか、発表するための「準備」の時間を設けますが、

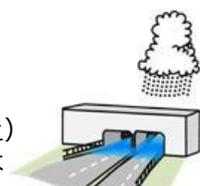
OOさん（専門家）、他に、言い忘れたことはありませんか？

【強い雨】（どしゃ降り）
（1時間雨量20㎜以上30㎜未満）
→ワイパーを早くしても見づらい

【非常に激しい雨】（1時間50㎜以上）
【猛烈な雨】（1時間80㎜以上）では
→車の運転は危険！

「雨の強さと降り方」より

アンダーパス が浸水



気象コラム

【自動車による避難】

自動車による避難は、移動中に洪水等に見舞われることや渋滞を発生させるおそれがあることに留意すべきである。また、一時的な避難先としてやむを得ず車中泊をする場合においては浸水等の災害リスクのある区域等に留まらないようにするとともに、エコノミークラス症候群等の予防を行うべきである。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「1.2 居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢」より]

気象コラム

【警戒レベル5】

市町村長から警戒レベル5 緊急安全確保が発令された際には、居住者等は命の危険があることから直ちに安全確保する必要がある。

具体的にとるべき避難行動は、「緊急安全確保」である。

ただし、本行動は、災害が発生・切迫した段階での行動であり、本来は「立退き避難」をすべきであったが避難し遅れた居住者等がとる次善の行動であるため、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。さらに、本行動を促す情報が市町村長から発令されるとは限らない。このため、このような状況に至る前の警戒レベル3 高齢者等避難や警戒レベル4 避難指示が発令されたタイミングで避難することが極めて重要である。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.4警戒レベル4 避難指示（発令者：市町村長）」より]



留意点

- ・大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合があります。そのことに気づき、早めの避難行動の重要性をしっかりと認識いただくことが、本ワークショップの最大の「ねらい」です。
- ・状況付与（発表準備）にある、大雨・浸水時や夜間の移動の危険性、避難行動の基本的な考え方・ポイントの説明も参照するよう促します。自ら「改善点」に気づくことで、記憶として定着しやすくなります。

専門家

「状況付与（発表準備）」の資料を見てください。

あとから入った情報ですが、災害が発生しています。

- ・5日（土）、大雨警報が発表された13時30分には、水路が溢れ、一部で道路が川のようになっていたとのことです。
- ・5日（土）の20時には、がけ崩れが発生しました。
- ・6日（日）の明け方に、各地で土砂災害が発生。崩れてきた土砂で、家が倒壊したとの情報です。
- ・そして、6日（日）11時には、大きな川の水が堤防を越え、川沿いの広い範囲で浸水したとのことです。

ファシリテーター

各地で災害が発生している状況のようです。

皆さんは、災害に巻き込まれる前に、命を守る行動がとれたでしょうか。

口頭で発表してもらいますので、

あらためて、発表のための資料を作成いただく必要はありません。

※発表方法は、参加者のWeb会議システム操作技術に依存します。

一番簡単な方法は、マイクをONにし口頭で発表してもらう方法です。プラスαとして、WEB会議システムのチャット機能を利用し、要点をメモ書きのように記してもらう方法もあります。参加者が使い方に慣れているようなら、作成した発表資料をWEB会議システムの画面共有機能を使って皆に示してもらう方法もあります。

話し合った内容を発表してもらいますが、

発表時間は各班2分しかありません。簡潔にまとめてください。

よかった点、もう少し、こうすればよかったと思った点なども含めてください。

準備は8分間、*時*分までに終わらせるようお願いします。

オンライン方式

※実施の方法に合わせて、グループワーク開始を宣言では、オペレーターさん、皆さんを各グループへ異動してください。グループワーク開始です。

*****（グループに分かれてワーク）*****

※「共有」を解除し、皆の顔が見えるようにする

※チャットなどで終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。

※グループに分かれている時は、カメラとマイクは、常にONにして、積極的に発言するよう促す。

【チャット】メインルームに戻ります。

カメラはON、マイクはOFFをお願いします

****（メインルームに戻って全体ワーク）****

※参加者がメインルームに戻ったことを確認

※「共有」によりプレゼン資料表示

対面方式

では、はじめてください。

*****（グループに分かれてワーク）*****

※終了時間をアナウンスし、参加者に終了時間を意識させる。

【ファシリテータ】はい、終了です。

こちらを注目してください。

****（メインルームに戻って全体ワーク）****

※参加者が落ち着いてから次へ



✓ 留意点

- ・ 講評は、どの班に対してもできるだけ良いところを見つけ指摘します。
- ・ 改善が必要な点については、その班を批判するのではなく、参加者全員にとっての検討課題として位置づけていきます。

ファシリテーター

では、順に発表してもらいます。

○班の方、発表をお願いします。2分以内にまとめてください。

(発表)

ありがとうございました。皆さん、拍手をおねがいします。

他の班の方から質問や意見はありませんか？

(なぜ、そのような判断をしたのか・・・)

各グループで、家族構成など、条件が違いますので、その点に留意しながら、質問などあれば聞いてください。)

※質疑対応、1分。

専門家

※専門家によるコメントは必須ではありません。

全体の会話がうまく進むよう、ファシリテータと連携して適宜対応

気象コラム

【雨がやんでも安全とは限らない】

- ・ 河川によっては、台風が過ぎ去った後や自分がいる場所での降雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがあるため、自宅・施設等への帰宅判断は、市町村の避難情報の解除を踏まえ慎重に行う。
- ・ 土砂災害は、降雨が止んだ後しばらくしてから発生する場合があるため、自宅・施設等への帰宅判断は、市町村の避難情報の解除を踏まえ行う。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.4災害種別毎の避難行動の特徴」より]

気象コラム

このワークで、考えてもらったいろいろな準備や避難行動については、正解は一つではありません。家族の状況や家のある場所によっても対応は異なりますし、もちろん気象状況によっても判断や、行動を変えなければなりません。

災害に遭わないためには、まず知ること。

- ・ 地域の災害リスクを知る (ハザードマップや過去の災害の記録)
- ・ 災害から身を守るための知識を知る

次に、

- ・ 警報や注意報などの気象状況を入手する (インターネットなど)

最後に、

- ・ 危ないと思ったら準備や行動 (避難)

これらを、状況に応じて自ら判断や行動を取れるようになってほしいと思います。

また、本日知った知識を家族や友達にひろめるとともに、いざというときに率先して行動出来るようになってほしいと思います。

※このスライドは、参加者の様子を見て、適宜、フォローに利用

【講評のポイント】

○居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢

居住者等は、既存の防災施設、行政主導のソフト対策には限界があることをしっかりと認識するとともに、自然災害に対して行政に依存し過ぎることなく、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で主体的な避難行動をとることが必要である。

主体的な避難行動をとるにあたり居住者等が特に留意すべき事項は以下のとおりである。

- ・ 平時より、居住地や勤務・通学先、要配慮者利用施設等、日常生活において自らが居ることが多い場所（以下「自宅・施設等」という。）の災害リスクを把握するとともに、適切な避難行動、避難のタイミングは各居住者等で異なることを踏まえ、災害種別毎に自宅・施設等が、立退き避難が必要な場所なのか、上階への移動等で命に危険が及ぶ可能性がなくなるのか等についてあらかじめ確認・認識し、災害時にとるべき行動を自ら判断すべきである。
- ・ 平時より、予定している避難経路が安全かどうかを確認しておく必要がある。例えば、大規模な河川の氾濫が発生していなくても水路や下水道の氾濫により足元が濁水で見えにくくなり道路の側溝や蓋が外れたマンホール等に落下したり、小規模な土砂災害が発生したりする場合があることも踏まえ、安全な避難経路を検討する必要がある。また、必要に応じ、避難先や避難のタイミングそのものを見直す必要がある。
- ・ これらの平時に確認・検討するべき内容について、避難行動をとるとともにすることが想定される家族や地域等と共有し、災害時には可能な範囲で声を掛け合って避難すべきである。
- ・ 夜間や暴風時の立退き避難は危険を伴う。夜間に災害の状況が悪化する見込みがある場合はまだ日が明るいうちから避難するべきであり、暴風が予想される場合は、昼夜を問わず暴風が吹き始める前に避難を完了させるべきである。
- ・ 避難情報の発令対象区域は一定の想定に基づいて設定されたものであり、その区域外であれば一切避難しなくても良いというものではなく、想定を上回る事象が発生することも考慮して、危険だと感じれば、自主的かつ速やかに避難行動をとるべきである。
- ・ 自動車による避難は、移動中に洪水等に見舞われることや渋滞を発生させるおそれがあることに留意すべきである。また、一時的な避難先としてやむを得ず車中泊をする場合においては浸水等の災害リスクのある区域等に留まらないようにするとともに、エコノミークラス症候群等の予防を行うべきである。
- ・ 避難行動への負担感、過去の被災経験等を基準とした災害に対する危険性の認識、自分は災害に遭わないという思い込み（正常性バイアス）等によって避難行動をとるタイミングを逸することのないよう、行政から提供される避難情報や防災気象情報のほか水位情報や画像情報等のリアルタイム情報等を自ら確認し、適時的確に避難行動をとるべきである。
- ・ 災害が発生する前の、災害のおそれがある又は高い状況で市町村長から避難情報が発令されることから、実際には災害が発生しない「空振り」となる場合がある。避難した結果、何も起きなければ「幸運だった」という心構えをすることが重要である。
- ・ 他者からの避難の呼びかけが大きな動機付けになる場合があることから、自らの親戚・知人等が災害リスクのある区域等の居住者等である場合には、電話等をして避難を強く促すべきである。



[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「1.2 居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢」より]

【参考】【解説台本の一例】警戒レベルと防災気象情報

※このスライドは、参加者の様子を見て、適宜、フォローに利用

【解説台本の一例】

専門家

「避難情報」は、3種類あります。

避難に時間のかかる、高齢の方、障がいのある方、乳幼児などとその支援者の方は、「警戒レベル3 高齢者等避難」で避難開始です。

「警戒レベル4 避難指示」で、危険な場所から全員避難です。

「警戒レベル5 緊急安全確保」は、災害が発生・切迫した状況ですから、少しでも安全な場所で、身の安全を確保する必要があります。

重要なポイントは、「警戒レベル4」までに必ず避難を完了しておくことです。

専門家

避難のタイミングを考えると、参考となるのが防災気象情報です。

「警戒レベル」に関連した情報なので、「警戒レベル相当情報」といいます。

みなさんが自ら避難行動をとる際、判断の参考となる役割を担っています。

「洪水警報」、土砂災害に警戒を呼び掛ける「大雨警報」が発表された場合は、警戒レベル3に相当します。

そして、「土砂災害警戒情報」が発表された場合は、警戒レベル4に相当します。つまり、「警戒レベル4 避難指示」と同じぐらい危険！と、思ってください。

「大雨警報」や「土砂災害警戒情報」などは、どの地域が危険か誰でもわかるよう、お住まいの市町村の名前を特定して発表しています。

地域の細かい状況は、（状況付与「場面3」にも配布されていますが、）キキクル（危険度分布）で確認してください。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 相対 洪水発生情報 大雨特別警報(土砂災害)
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示	4 相対 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	3 相対 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報	2 相対 氾濫注意情報 -
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相対 - -

気象コラム

警戒レベルとは、災害発生のおそれの高まりに応じて5段階に分類した「居住者等がとるべき行動」と、その「行動を促す情報」（避難情報等：市町村が発令する避難情報と気象庁が発表する注意報等）とを関連付けるものである。

警戒レベルの一覧表（避難情報等と居住者等がとるべき行動）	
避難情報等	居住者等がとるべき行動等
【警戒レベル5】 緊急安全確保 （市町村長が発令）	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害発生又は切迫（必ず発令される情報ではない） ●居住者等がとるべき行動：命の危険 直ちに安全確保！ ・指定緊急避難場所等への立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。 ただし、災害発生・切迫の状況で、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。
警戒レベル5に至る前の、警戒レベル3高齢者等避難や 警戒レベル4避難指示が発令されたタイミングで避難することが極めて重要	
【警戒レベル4】 避難指示 （市町村長が発令）	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害のおそれ高い ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から全員避難 ・危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。
【警戒レベル3】 高齢者等避難 （市町村長が発令）	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害のおそれあり ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等※は危険な場所から避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。 ※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者的高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。
【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮 注意報 （気象庁が発表）	<ul style="list-style-type: none"> ●発表される状況：気象状況悪化 ●居住者等がとるべき行動：自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認
【警戒レベル1】 早期注意情報 （気象庁が発表）	<ul style="list-style-type: none"> ●発表される状況：今後気象状況悪化のおそれ ●居住者等がとるべき行動：災害への心構えを高める ・防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2避難情報等と居住者等がとるべき行動（警戒レベルの詳細）」より]

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
（入っていると…）



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります



地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い



3・4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
2階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
1階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分
（十分じゃないと…）

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間（浸水継続時間）はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

まとめ：本日のねらい

本日のねらい

警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ！

市区町村が発令する「避難情報」で、
確実に避難することが重要

↓
しかし、外の状況は刻々と変わる

「避難情報」が発令されていなくても、気象台等が発表する防災気象情報を参考に、自らの判断で、早めに命を守る行動をとることも重要。

✓ 留意点

- ・大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合があります。そのことに気づき、早めの避難行動の重要性をしっかりと認識いただくことが、本ワークショップの最大の「ねらい」です。

ファシリテーター

では、まとめとして、〇〇さん（専門家）より、少しコメントしてもらいます。

専門家

本日のワークショップのねらいは「警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ」点にありました。非常に重要なので、各自で復習してください。

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。しかし、外の状況は刻々と変わってゆきますので、市町村から「避難情報」が発令されていなくても、気象台等が発表する防災気象情報を参考に、自ら判断で、早めに命を守る行動をとることも重要になってきます。

大雨から命を守る重要なポイントなのでぜひ、みなさんの大切な人にも伝えてください。

気象コラム

【避難行動の分類】

身の安全を確保するためにとる次の全ての行動が避難行動ですが、指定緊急避難場所や安全な親戚・知人宅等に避難する「立退き避難」が避難行動の基本です。

避難行動	避難先	(詳細)	居住者等があらかじめ確認・準備すべきことの例
緊急安全確保	・安全とは限らない自宅・施設等 ・近隣の建物(適切な建物が近隣にあると限らない)	・上階へ移動 ・上層階に留まる ・崖から離れた部屋に移動 ・近隣に高く堅牢な建物があり、かつ自宅・施設等よりも相対的に安全だと自ら判断する場合に移動等	・急激に災害が切迫し発生した場合に備え、自宅・施設等及び近隣でとりうる次善の行動を確認
~~~~~警戒レベル4までに必ず避難~~~~~			
立退き避難	安全な場所	・指定緊急避難場所(小中学校・公民館・高台・津波避難ビル・津波避難タワー等) ・安全な自主避難先(親戚・知人宅、ホテル・旅館等)等	・避難経路が安全かを確認 ・自主避難先が安全かを確認
屋内安全確保	安全な自宅・施設等	・安全な上階へ避難 ・安全な上層階に留まる等	・ハザードマップ等で浸水深や浸水継続時間等を確認し、自宅・施設等で安全を確保でき、かつ、浸水による支障※を許容できるかを確認・長時間の孤立に備え備蓄等を準備
※ 支障の例：水、食糧、薬等の確保が困難になるおそれ、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれ			

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.3避難行動の分類(立退き避難、屋内安全確保、緊急安全確保)」より]

## 災害への心構え

災害は「まさか」ではなく  
「いつか」起きるものと認識せよ！

「自分は大丈夫」とは思わない！

「自らの身は自ら守る」「大切な人の命を守る」という意識を持つ。

## ✓ 留意点

本日の学習を、さらに深いものにし定着させていくためには、

- ①お土産として、プレゼンスライドを配布する
- ②意見や感想を書いてもらう
- ③後日参加者同士が集まり話し合える機会を用意する
- ④インターネットでこのワークショップについて復習（意見交換）するといった方法が考えられます。

## ファシリテーター

きょうみなさんは、大雨による災害から命をまもるため  
どうするか、真剣に考えました。

災害は「いつか」起きるものと認識する

「自分は大丈夫」とは思わない

「自らの身は自ら守る」「大切な人の命を守る」という意識を持つ。

いかがでしたか。

ワークショップに参加する前より格段に

大雨災害の時の対応する力がついたことと思います。

今日知ったこと、感じたことを

ぜひ、お家の方や友達など、身近な人にも伝えてください。

## ファシリテーター

※本運営マニュアルの最終ページに「アンケート」の見本を掲載しています。

回収の段取りがつかうようでしたら適宜活用ください。

それでは皆さん、大変お疲れ様でした。

ご参加、ありがとうございました。

## 気象コラム

### 【避難行動の目的】

「避難行動」は、数分から数時間後に起こるかもしれない自然災害から「生命又は身体を保護するための行動」である。

居住者等は、身の安全を確保するという観点から、災害時に適切かつ円滑な避難行動をとることができるよう、平時から次に掲げる事項をできる限り事前に明確に把握するとともに、当該避難行動をとれるよう準備・訓練等をしておく必要がある。

- ① 災害種別毎に、自宅・施設等がある場所にどのような命を脅かす脅威があるのか
- ② それぞれの脅威に対して、どのような避難行動をとれば良いか（避難先、避難経路、避難手段、家族等との連絡手段等）
- ③ どのタイミングで避難行動をとれば良いか

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.1避難行動の目的」より]

### 【分散避難について】

「避難」とは、文字通り「難」を「避」けることであり、小中学校や公民館等の指定緊急避難場所に行くことだけが避難ではなく、それ以外にも安全な親戚・知人宅やホテル・旅館等の避難先に立退き避難したり、自らの判断で屋内安全確保をする等、様々な避難行動がある。市町村は、指定緊急避難場所の混雑回避等のためにも、居住者等に対して様々な避難行動を推奨することが望ましい。指定緊急避難場所への避難以外も含め様々な避難行動をとること、またこのような避難行動のあり方は「分散避難」と呼称される場合がある。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「関連情報②「分散避難」について」より]

## eラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」

台風・豪雨から「自らの命は自らが守る」基本的な知識と行動を動画で学び、自らの行動をワークシートで確認し、いざというときに備える教材です。好きな時間、自分のペースで学習を進められます。個人学習だけでなく、自治会や学校などでも活用できる教材です。マイタイムラインや地区防災計画の事前学習資料にも最適です。

自らの命は自らが守る 基本的な知識と行動を学ぶ  
**「大雨の時にどう逃げる」**  
監修：防災教育学会会長 諏訪 清二先生

まさか  
自分や家族が  
被災するなんて…

**あなたとあなたの大切な人は  
自分の命を自分で守れますか？**

台風や豪雨による災害から、あなたとあなたの大切な人の命を守るためには、身近な災害リスクを認識し、基本的な避難行動を理解しておく必要があります。ぜひ、この教材で学んでいただき、周囲の人にも伝えてください。

気象庁



監修：防災教育学会会長  
諏訪 清二先生

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-el/dounigeru.html>  
ホーム>知識・解説>eラーニング「大雨の時にどう逃げる」

## 防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」

発達した積乱雲が引き起こす「急な大雨」「雷」「竜巻」等の激しい現象に対して、自分の置かれた状況を的確に判断し率先して自他の身の安全を図っていただくことを目的に制作したビデオ教材です。授業での進め方等、参考資料も公開しています。

都市部などでは、短時間の強い雨で浸水災害が発生します。浸水した状態で歩くことが大変難しいことを示したビデオです。こうなる前に早めの避難（あるいは安全なところにいるのであれば外出しないなど）が重要です。



気象庁ホームページでこれらのビデオや資料を見ることが出来ます。  
・字幕なし  
・日本語字幕あり  
・English Subtitles（英語字幕あり）

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/index.html)  
ホーム>各種申請・ご案内>刊行物・レポート>防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」



## 気象庁 知識・解説 YouTubeチャンネル

このチャンネルは、ひとりでも多くの皆様に、自然災害から「自分の命は自らが守る」意識を持っていただけるよう、気象庁が開設したものです。



<https://www.youtube.com/channel/UCODH6XDH1L618u3pOoFd-A>

## 気象庁ホームページ

気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) には、大雨の状況や雨雲の様子、警報・注意報の発表状況など、気象状況の把握が出来るとともに、いろいろな気象情報を利用して判断や避難などの対応について学べるページもあります。

スマートフォン等の普及もあり普段から情報を入力できる環境も整ってきていますので、自ら気象情報を入力して何に気をつけなければならないのか、いざとなったときにどのような行動を取らないといけないのか、普段から考えておくことが重要です。

災害は思いがけないときにやってきます。

また、いつかは必ず起こるものです。

いざというときに備えて気象情報を活用してください。



【参考】防災教育に使える副教材・副読本ポータル  
防災教育に使える副教材・副読本を、対象年齢別、現象別等に整理して気象庁ホームページに公開しています。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/fukukyouzai/index1.html>

**逃げなきゃコール**  
災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

あなたと相手の住む地域を登録  
もしもの時は!  
大切な人に電話で連絡

アプリのサービス登録  
登録した地域の災害情報通知  
逃げなきゃコール

あなたの「逃げて!」が命を救う  
各種アプリやサービスから登録した地域の災害情報が通知されます。

詳しくは **逃げなきゃコール** 検索

家族からの「逃げて!」ですぐ行動を。

NHK Yahoo! au docomo 国土交通省

## 逃げなきゃコール

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

事前に、スマートフォンアプリやサービスの地域登録機能を活用し、離れた場所に暮らす高齢者の家族など相手の地域を登録することで、登録した相手の地域に水害などの危険が迫った際、アプリやサービスを通じて防災情報を PUSH 型で受け取れるようになります。この情報をもとに、離れた場所に暮らす家族などの大切な人に直接電話等で避難を呼び掛けることで、避難を後押しします。

国土交通省「逃げなきゃコール」サイト  
<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html?id=01>

国土交通省報道発表資料 あなたの一声で大切な人の避難を後押し！  
～「逃げなきゃコール」がより多くのスマートフォン等で実施できるようになります～  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001059.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001059.html)

# ワークショップ 「経験したことのない大雨 その時どうする？」 参加者用アンケート

本日はご参加ありがとうございました。  
今後の改善のため、アンケートにご協力ください。  
あてはまる番号を1つだけ選び、その番号を○で囲んでください。

①今回のワークショップの内容について、どの程度満足しましたか？

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 非常に満足した    | 2. 満足した      |
| 3. あまり満足しなかった | 4. 全く満足しなかった |

②今回のワークショップを経て、防災に対する意識はどの程度高まりましたか？

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 非常に高まった    | 2. わりと高まった   |
| 3. あまり高まらなかった | 4. 全く高まらなかった |

③これから先、あなたが大雨にあった場合、今回学んだことは役に立つと思いますか？

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1. 役に立ちそう       | 2. わりと役立ちそう |
| 3. あまり役に立ちそうにない | 4. 役立ちそうにない |

④このようなワークショップに、また参加してみたいと思いますか？

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. とても思う   | 2. 思う     |
| 3. あまり思わない | 4. 全く思わない |

⑤大雨災害について友達や家族と話し合ってみたいと思いますか？

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. とても思う   | 2. 思う     |
| 3. あまり思わない | 4. 全く思わない |

⑥今回のワークショップを通して気づいたことや感じたことを教えてください。

ご協力ありがとうございました。